

回復期リハビリテーション病棟退院後の 戦略—生活機能の向上をめざして

Practice after 'kaifukuki' rehabilitation—heading for progress in functioning

日本のリハビリテーションの特徴の1つとして、比較的長期の入院リハビリテーションにより達成される高い機能・日常生活動作（activities of daily living；ADL）の達成が挙げられます。その一方、回復期リハビリテーション病院退院後にその機能・ADLを維持することができない、難しいという不安を患者が感じていることも指摘されています。そこで今回は、回復期リハビリテーション病院退院後に、機能や能力を高く保つ、もしくは在宅でさらに改善させていくために、入院中から何を行うべきか、外来診療や在宅サービスとどう連携していくかなどについて、それぞれの立場からご解説いただきました。

総論—回復期リハビリテーション病棟入院中の在宅生活に向けた準備 新城吾朗氏 … 833

回復期病棟から自宅退院した患者をフォローした報告では、20～40%程度の患者でADLが低下したとされている。機能・ADLの低下を防ぐために、入院中に痙縮・排泄などの管理指導や、装具などの作製や装用指導、退院後の生活を見据えたADL指導、生活環境の整備、社会的な問題へのアプローチを行う。退院後にも必要な医療処置や栄養管理、脳卒中の再発予防のための抗血小板療法・抗凝固療法や血管危険因子の管理を確実に継続していく体制づくりも必要である。

歩行能力の維持・向上 松原 徹氏 … 839

回復期病棟退院後早期からリハビリテーションサービスを提供することは、機能維持・改善に寄与すると考えられる。生活期における適切なリハビリテーションプログラムの実施には、活動・生活に焦点をあてつつ心身機能や構造も経時的に評価・見直していくプロセスが重要である。国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health；ICF）を応用して評価を行い、通所や訪問でのリハビリテーションプログラムの立案・実施・見直しといったマネジメントを行っている事例を紹介する。身体機能や認知機能、環境面など歩行にかかわる課題は複数あり、包括的な視点で利用者を捉えてかかわっていくことが重要である。

上肢機能・ADL・IADLの維持、向上 田中克一氏ら … 845

回復期病棟退院後、主に上肢機能の維持・向上を目的としたリハビリテーション治療として、HANDS療法やボトックス療法を併用したHybrid Assistive Neuromuscular Dynamic Stimulation Therapy（HANS）療法を外来で短期集中プログラムとして実践し、効果を上げている。適応判断、複数の評価による変化の把握、プログラム終了後の長期的なフォローの実践について事例を交え紹介する。ADLや日常生活関連動作（Instrumental ADL；IADL）の維持・向上に関しては、「活動と参加」・「環境因子」・「心身機能」にバランスよくアプローチするリハビリテーション治療が提供できているかどうかを継続的に管理す

る，リハビリテーションマネジメントの強化が勧められている．包括的視点で評価・訪問リハビリテーション実践を行い，活動や参加が拡大した事例を紹介する．

摂食嚥下機能の維持・向上 藤森貴久氏ら…………… 853

摂食嚥下障害の改善には長期を要することも多く，入院中から退院後を見据えた，途切れることのないリハビリテーション支援が重要である．摂食嚥下障害患者への訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションでは，間接嚥下訓練や姿勢や食形態の調整・嚥下法獲得のための訓練に加え，日々の生活の活性化や社会参加を促すアプローチも重要である．訪問言語聴覚士による出前講座で啓発運動を行う，嚥下調整食の提供が行われている飲食店などといった地域資源の情報の蓄積と共有にも取り組んでいる．

高次脳機能の維持・改善と復職支援 大塚恵美子氏…………… 861

高次脳機能障害に対する支援の困難さは，症状の有無が周囲の人にわかりにくく，本人も自覚しにくいという点にある．就労支援では，自己認識のレベルを深めて職場での適応ができるようにサポートしていく．そのために回復期リハビリテーション病棟入院中からスケジュール把握などの生活管理を自ら行う，入院中～退院後も通える作業療法グループ訓練や心理グループに参加するなどで自己理解・気づきを促している．退院後には，日中活動の場をまずは確保するなど職業準備性を積み上げつつ，復職までの期間や課題を把握する，適切な支援機関を紹介する，といった段階・時期に応じた支援を行う．

書評	こどもの整形外科疾患の診かた 第2版	
	—診断・治療から患者家族への説明まで（評者：高山真一郎）……………	867
	《理学療法 NAVI》エキスパート直伝	
	運動器の機能破綻はこう診てこう治す [Web 動画付]（評者：荒木 茂）……………	899
	図説 医学の歴史（評者：泉 孝英）……………	917